

インバウンドシンポ「観光立国の条件」

日本経済新聞社と日本

政府観光局（JNTO）

は26日、インバウンドシンポジウム「観光ビジネス立国の条件」を都内で開いた。東洋文化研究家のアレックス・カー氏は講演で、訪日外国人客は約2千万人にまで増えており、「（日本は）自然や古い町並みを大事にするよう責任を持つ時代に入った」と指摘。「（外国人が日本に求める）美しい村や町並みを残していくことが重要だ」と語った。

増加が続く訪日客だ

3000万人時代へ 地方展開が重要



シンポジウムで討論する
森トラスト・ホテルズ&
リゾートの伊達美和子社
長（右）ら（26日、都内）

「観光地間で連携を」

が、訪問先は東京や大阪といった大都市が中心。J・フロントリテイリングの山本良一社長は百貨

店などのインバウンド消費も大都市に集中していることに触れ、「地方へ広げることが非常に重要」

「インバウンド2000万人時代」さらなる飛躍への課題」と題したパ
ネルディスカッションで
は、ジャパンシヨッピン
グツーリズム協会の新津
研一専務理事が「観光と
商業が両輪で回っていかなければならない」と指
摘。シヨッピングや飲食、
観光などが連携を深める
必要性を強調した。

訪日客の増加で宿泊施設の不足が深刻になっている。森トラスト・ホテルズ&リゾートの伊達美和子社長は地方で宿泊施設などへの投資を活発にするためには、「投資リスクを軽減する税制措置や、雇用への補助金など支援の仕組みが必要だ」と話した。